

TOY BOX

2005.8
vol.12

Hello!Project Fan Magazine



ハロプロ研究

高橋愛が率いるモーニング娘。

応援スタイルを今一度考える

コンサートなんだから「音」を楽しもうよ!



高橋愛が率いる モーニング娘。

text by だっち

なんと言つてもいま、高橋愛が熱い！その高い歌唱力と、ダンステクニックを、存分に發揮することによつて、間違ひなくモーニング娘。を率いるエースメンバーとして輝きはじめた。その一方で、緝野のダンスの上達はめまぐるしく、もはや高橋・藤本・小川に次ぐ位置につけてきた。到来したのである。5期の時代だ。

ここに来て、高橋を中心娘。がまとまとたのは何故か。まず、石川の卒業・矢口の脱退によつて、過去のスターメンバーが去つたことが、大いに関係している。本誌の記事「エースつて何なの？」で訴えた“スポットライトの独占状態”が、生み出されやすくなつたのである。そして最も重要なのは、実際に高橋をファイチャードした、という事実である。どれだけその状態が生み出しそくなつても、実行しなければ元も子もないのだから。高橋をふたたび推そうと英断した人たちに、拍手。

また、娘。がまとまとた理由に、久住の加入がおおいに関係しているだろう。彼女の存在は後藤を思わせる。それはやはり、先の記事で書いた“周囲との差”においてである。彼女の加入は、分散しつつあつたグループのイメージをギュッと引き締めたのではないか。ぼんやりし過ぎたモーニング娘。の輪郭は、高橋・緝野・久住という特殊な要素によつて復活しつつある。

を見て、初めて気付かされたことが2つある。まず、私の言っていた“周囲との差”は、

エースになるためのものというよりは、引き締める効果を生むものだということ。それから、この“周囲との差”的効果は、単独加入でしか生まれない、ということ。やはり複数の加入では、各人の引力が分散するし、イメージもぼやけてしまうからだ。単独加入は、その点で抜群に優れた方法であることを、久住は私に思い知らせた。

話を戻そう。高橋が娘。の核として機能しはじめた理由は、他にもある。曲調だ。高橋のリーダーシップが表面化したのは、

「大阪恋の歌」と「色っぽいじれつたい」である。さて、この2曲にあって、以前の曲々になかった要素とは、いったい何だろうか。それは、プレイヤーにとつての自由性の高さだ。分かりやすく言うと、余裕をもつて歌やダンスを披露しやすいという特徴である。たとえば、歌やダンスのフレーズが詰まつてないか、間奏が充実しているか、抑揚が効いているか、などが問題になる。「浪漫」では、与えられた歌とダンスをこなしているうちに一曲が終わつたるうし、「涙が止まらない放課後」では、歌もダンスも抑揚がとても少なかつた。どちらも悪くない。それだけは明言しておきたい。

しかし、高橋愛という実力者を生かすには、できる限り、伸び伸びと歌つて踊れる曲が欲しいのである。そして、プロデュース陣はそのとおりの楽曲を投下してきた。最近の彼女の輝きは、まさに水を得た魚の輝き

なのである。

「一人だけをフューチャーする方法」も、「プレイヤーの自由性が高い楽曲」も、私がずっと求め続けてきたものたちだつた。が、・・・叶うとは思いもしなかつた。再びモーニング娘。のレビューをすることになるなんて、未だに信じられない。だが実際に、私は彼女たちの新しい姿に打ち震えては、必死でキーを叩いている。感動している。高橋愛がモーニング娘。をこれからも率いてくれるのなら、私もモーニング娘。にもう少しだけ率いられてみたいのである。新天地はまだかい、愛ちゃん。

コンサートなんだから 「音」を楽しもうよ!!

♪／＼バッシュ～

みなさんコンサートに行つたことがありますか？行つたことがある方に、初めてハローー系コンサートに行つたときの感想を聞いてみると、必ず挙がるのが「観客の方々のコールに驚きました」というもの。ステージ上で歌うメンバーとファンとの一体感は、他のアーティストのコンサートではあまり体験することができない独特の会場の雰囲気を作り出しています。

そこで、コンサートに行つたことない方のために、観客のコールとはどういったものがあるのか簡単に説明すると、"P·P·P·H"（ファンが曲に合わせてパン・パン・ヒュー）と手拍子と掛け声で盛り上げる行為、またはそのリズムに合わせて、その歌のパートを唄っているメンバーの名前やニックネームを呼ぶ）や“L·O·V·E·ラブリー○○”（○○にはメンバーの名前やニックネームなど、いくつかのパターンが存在します。コンサートに行つたことがない方でもDVD等で聴いたことがあると思います。

これらのコールがうるさいという人もいる。みんながやっているから、自分もするという人もいる。これらのコールがない、静かなコンサートを想像してみてください。一度ぐらい、音楽をじっくり聴くコンサートを体験してみたいと思いませんか？

さて、ここで話題をかえて、僕の大好きなプロ野球の応援スタイルについて考えてみます。

僕も、過去に1度だけ球場で体感したことがあるのですが、普段と違う球場に観戦にきているみたいで、歓声と拍手だけのメジャースタイルな応援がとても新鮮で本来の野球観戦を楽しむことができました。応援歌を歌わず、振りをせず応援することによって真剣にプレーに見入り、応援歌が響かない球場では目や耳など全ての神経をブ

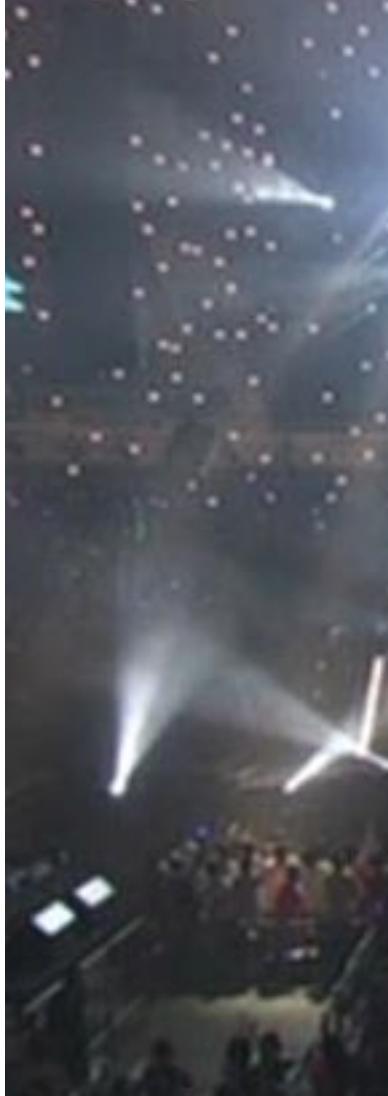
みなさんはプロ野球を行つたことがありますか？行つたことがある方に、初めてハローー系コンサートに行つたときの感想を聞いてみると、必ず挙がるのが「観客の方々のコールに驚きました」というもの。ステージ上で歌うメンバーとファンとの一体感は、他のアーティストのコンサートではあまり体験することができない独特の会場の雰囲気を作り出しています。

多くの方はプロ野球をTVで観たことがあります。日本のプロ野球にも応援団による応援（コール）があります。「かつとばせー○○！」という応援スタイルは現在ではあまり使われていませんが、各球団、各選手ごとによって様々な応援の方法が存在します。トランペット部隊や太鼓部隊など鳴り物で応援を活気付かせ、その鳴り物に観客がリズムを合わせ、球場全体で観客が一体になり、選手やチームに対し声援を送るのです。

こういった応援スタイルは実は日本独特のモノです。野球の本場であるアメリカのメジャーリーグでは、各々ファンが個人による手拍子と歓声だけのいたってシンプルな応援方法なのです。野球そのものを楽しむのか、野球だけでなくみんなで一体になり一緒に応援することも楽しむのか、という民族性の違いなのかもしれません。日本のプロ野球界はそういった鳴り物応援を年に1～2度控え、歓声と拍手のみで応援するといったメジャー応援スタイルを実験的に取り入れています。



▲メジャーリーグの応援は歓声と拍手のみのシンプルな内容



レーに注ぐことができ、ボールを打つ音など普段聞くことのできない「音」が楽しめます。

こういった応援の相違関係はハロー系コンサートと他のアーティストのコンサートの相違関係に類似していませんか？コールや振りといふものは、それぞれ一長一短があり、コンサートを見に来ているファンの間では賛否両論だと思います。会場とステージ上のアーティストとの一体感があって良いと思う方も多いと思いますが、「静かに観て聴いていたい」とか、「隣の席の人の振りが邪魔でコンサートに集中できない」など色々な声が聞こえてくることも事実です。

それなら、そういうコールや振りを無くしたコンサートを皆さん一度味わつてみたいとおもいませんか？音楽を聴く上で一番大切な「音」というものに重点を一度置いてみて、「聴く」コンサートというのもなかなか楽しめるのではないかでしょうか？メンバー同士が小声で会話しているのを聴いてみたいとおもいませんか？それは趣旨が違うな（笑）

現在のハローのコンサートにおける応援が悪いと言っているわけではありません。いい風に解釈するなら、観客の力で盛り上げられるパワーがあるとも考えられます。仮に、あまり盛り上がりっていないコンサートであつたとしても、ある曲が流れただけ

で観客は興奮し、コンサート 자체を盛り上がりしているかのようにみせるだけのパワーがある。

応援方法はどのようなものであつても、一長一短だと思います。ならば、一度で良いからメジャーリーグのような静かな、「音」を楽しむコンサートというのを経験してみたいです。



☆記事募集のご案内☆

現在、「TOYBOX」では記事を書いてくれる方を募集しています。参加条件は無し、どなたでも歓迎いたします。

次号分のテーマは

- 高橋愛ちゃんについて

です。もちろん従来どおり自分でテーマを設定して下さっても結構です。文字数は1ページあたり約1000文字で、何ページでもOKです。画像の数・サイズによって変動しますのであくまでも目安としてお考え下さい。

文章は「TOYBOX」サイト内“mail”ページのフォームから投稿してください。また、縦書き・横書きの希望がございましたら併せてフォームへ記入して下さい。編集の都合上やむを得ない場合を除き、出来る限りの対応をいたします。

それでは読者の皆様からの投稿をお待ちしています。

今月号の「コミックハロプロ」はありません。作者のカゴカゴさんにお願いするのを忘れてしまってました(爆)。楽しみにして下さっている皆様にご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ございません。次号は掲載の予定です。

来月9月はモーニング娘。高橋愛ちゃんのお誕生日です。皆様からの投稿をお待ちしております。ただし、編集上の都合で投稿頂いても掲載できないことがありますので、その点ご了承下さい。それではよろしくお願ひいたします。

執筆者紹介

flight	亀井絵里推し。『えりりんどっこむ』を運営中。表紙デザイン担当
だっち	松浦亜弥推し。『But it depends on...』を運営中。
バッシ~	藤本美貴推し。『Mikitty Way』を運営中。
ハイマン・ロス	辻希美推し。『ののすいーと』を運営中。デザイン担当